

—— 経済財政問題 ——

緊縮財政は 市民を貧しくする！

デフレ期の緊縮財政は、むしろ財政を悪化させる！
市内総生産の拡大こそ財政健全化への道！
まずは、財政健全化の定義を示せ！



—— 地域医療問題 ——

急増する医療難民！

在宅(医療・介護)への過度な期待は危険！
高齢者介護施設等での医学的管理の充実強化が重要！

緊急レポート！

- 三宅の視点、隆介の主張
- 早くしないと日本が溶けていく

みやけ りゅうすけ

川崎市議会議員
議会報告

三宅隆介

プロフィール

昭和 46 年 3 月 23 日生まれ。
大東文化大学 文学部 卒業。 ユアサ商事株式会社を経て、
松沢成文（当時・衆議院議員）秘書。
平成 15 年 4 月 川崎市議会議員 初当選。現在 4 期目。
川崎市多摩区中野島在住。



目次 CONTENTS

質問テーマ1 経済財政問題

デフレ期の緊縮財政は、市民を貧しくする

デフレ期の緊縮財政は、むしろ財政を悪化させる！
市内総生産の拡大こそ財政健全化への道！
まずは、財政健全化の定義を示せ！

行政の黒字は市民(企業・家計)の赤字…
それが国民経済の常識！

三宅隆介の議場レポート 質問と市の答弁(要約)……………	1
GDPとは何か?……………	3
財政健全化の定義とは何か?……………	5
金融緩和だけでは、デフレを克服できない……………	7
国や自治体は、なぜ緊縮財政にこだわるのか……………	9
公共事業で国の財政が悪化したというウソ……………	11
市内総生産拡大の具体策……………	15

質問テーマ2 地域医療問題

急増する医療難民

在宅(医療・介護)への過度な期待は危険！
高齢者介護施設等での医学的管理の充実強化が重要！

行き場のない療養患者を作らないために…
医療・介護のインフレギャップを埋めよ！

このままでは行き場のない療養患者が拡大する……………	17
在宅(医療・介護)への過度な期待は危険……………	20
求められる高齢者介護施設等での医学的管理の充実……………	21
救急車への“押しつけ医療”を抑制するために……………	23

デフレ期の**緊縮財政**は 市民を貧しくする



- ▶ デフレ期の緊縮財政は、むしろ財政を悪化させる！
- ▶ 市内総生産の拡大こそ、財政健全化への道！
- ▶ まずは、財政健全化の定義を示せ！

議会質問と市の答弁（要約）

改選後はじめてとなる川崎市議会定例会において、川崎市の行財政改革について質問に立ち、行政をたどしました。
以下、議事の要約を掲載します。

政府見解を踏襲する市当局の経済情勢認識をただし、現状分析の甘さを鋭く指摘！



質問1

三宅隆介

現在の経済情勢をどのように分析しているのか？

答弁 大村研一（財政局長）

経済情勢については政府見解と同様で、「歳出改革」と「歳入改革」と「デフレ脱却・経済再生」が一体として推進されています。こうした政府の取り組みによってデフレ脱却と市税収入の増へとつながることを期待しています。



川崎市

行政の黒字は市民（企業・家計）の赤字…
それが国民経済の常識！
行政運営は企業経営や家計簿とは別物！

定義さえも政府見解を踏襲する川崎市。
定義を明確にできなければ、適切な対策は打てない！



質問2

三宅隆介

「財政の健全化」をどのように定義し、それをどのように進めようとしているのか？

答弁 大村研一（財政局長）

「財政の健全化」を定義することはできないが、政府が『骨太の方針』で示している「国・地方を通じたプライマリーバランスの黒字化」のことと理解しています。
本市もプライマリーバランスの黒字化を目指します。



川崎市



「三宅」の視点 「隆介」の主張

- ▶ 平素は「地方分権」を叫びながら、答えに窮すると政府見解を踏襲するのが昨今の地方行政の全般的な特徴。
- ▶ 政府の「デフレ対策」と「財政健全化の定義」は間違っている。
- ▶ 川崎市が政府と同様に、デフレ期においてプライマリーバランスの黒字化（政府はこれを緊縮財政で実現しようとしている）を進めるなら、川崎市の税収はかえって減ってしまい、市民サービスは低下する。
- ▶ 緊縮財政によらず、市内総生産（市内 GDP）の拡大による財政健全化が必要。

三宅隆介が市民の皆さんの疑問に答えるかたちで…
次のページから明快に解説します！

Q そもそも、
GDPって何ですか？

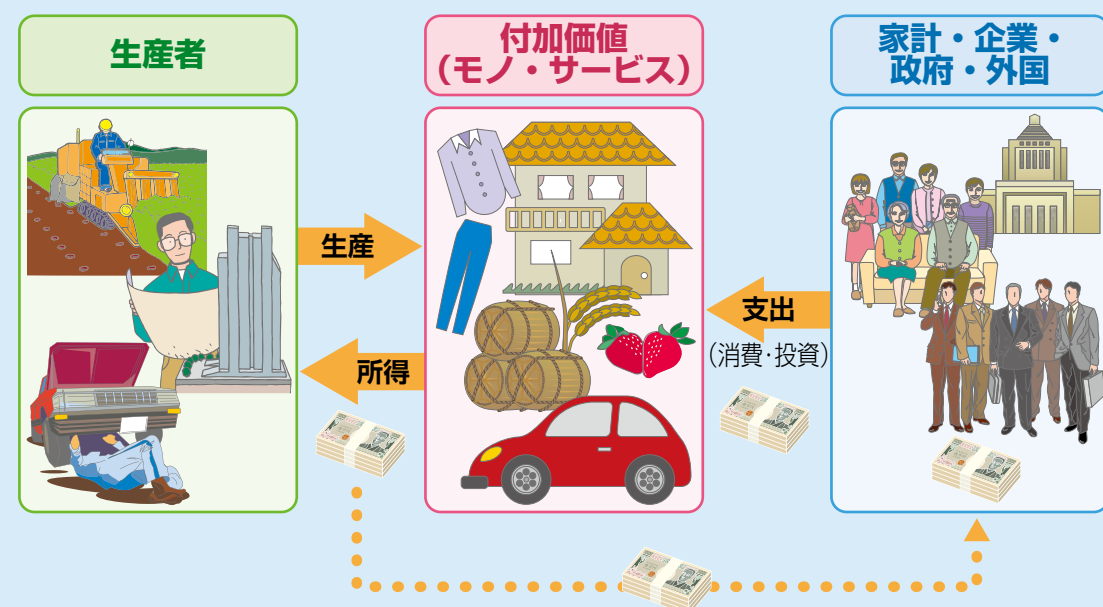


A GDPとは、**一定期間に国内で稼いだ所得の総額**です。
所得は誰かによって生産されたモノやサービスを誰かが買うことによって創出されます。



GDP (Gross Domestic Product) とは国内総生産のことであり、一定期間に国内で生産された付加価値（モノ・サービス）の総額です。
下図のとおり、「付加価値の生産」「所得の分配」「支出（消費・投資）」のそれぞれの総額は、統計的に必ず一致します。これを GDP の三面等価の法則といいます。
それを川崎市にあてはめたものが市内総生産（市内 GDP）です。
誰かによって作られたモノやサービスを他の誰かが買わなければ、GDP は増えません。

所得(GDP)創出のプロセス



- 誰かが働かない限り、モノやサービスが生産されず、所得は生成されない。
- モノやサービスが生産されても、消費や投資として支払いが行われなければ、所得は生成されない。
- 消費や投資のためのお金は、所得から支払われる。

Q なぜ、GDPの拡大が
必要なんですか？



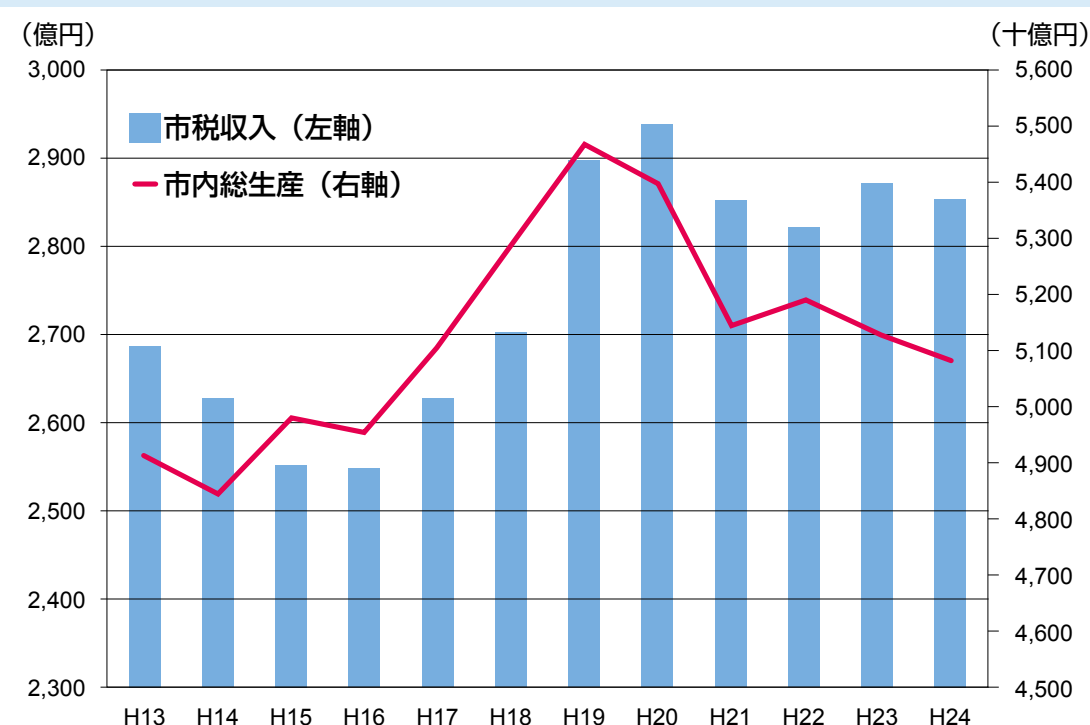
A 答えはいたって簡単です。
税金は、**市内総生産(市内GDP)に比例**するからです！



下 のグラフを見ると、市税収入が市内総生産(市内 GDP)に比例していることがわかります。
相関係数は、高い相関性を示す「0.72」です。(相関係数とは…2つの確率変数の間の相関《類似性の度合い》を示す統計学的指標です。-1 から +1 の間の実数値をとり、+1 に近いときは2つの確率変数には正の相関があるといい、-1 に近ければ負の相関があることとなります。)

これらが比例するのは当然です。なぜなら、GDP は税金の源泉そのものだからです。
現在のようなデフレ経済の中で、行政が率先して緊縮財政を断行すれば、市内総生産が落ち込んでしまい、結果として税金が不足します。
だからこそ、市内総生産の拡大が必要となります。
民需に期待できないデフレ期の今こそ、需要(市内総生産)を拡大するのは行政が担うべき役割です。

市税収入と市内総生産(名目)



相関性が非常に高い！

Q 財政健全化の定義とは何ですか？



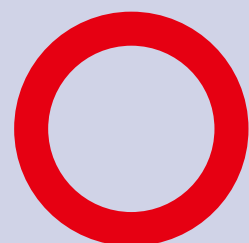
A 財政健全化の定義は、「負債残高の対GDP比率の低下」です。健全化を決定する要素は3つあり、プライマリーバランスの黒字化は、そのひとつに過ぎません。



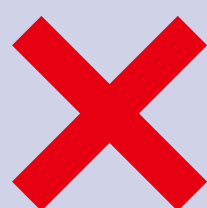
財 政健全化とは、負債残高の対GDP比率の低下を意味しています。それを決定する要素は次の3つです。

1：金利 2：GDPの成長率 3：プライマリーバランス

プライマリーバランスは、健全化のための要素のひとつに過ぎません。その要素のひとつのみを、財政健全化の目標に掲げている政府や、それを鵜呑みにしている川崎市財政局の考え方は間違っています。特に、デフレ期においては、歳出削減によって無理にプライマリーを黒字化しようとする、市内総生産が落ち込んでしまい、かえって税収が不足します。逆に、プライマリーが赤字化してもGDPの成長率がそれを上回れば、負債残高の対GDP比は低下します。よって、歳出の削減ではなく、市内総生産を拡大することにより、つまり、市民の所得を向上させることにより、財政健全化を図ることが必要です。市内総生産を縮小させるということは、市民を貧乏にすることです。市民を貧乏にしてまで行政がプライマリーを黒字にしても何の意味もありません。



市内総生産の拡大により、財政を健全化

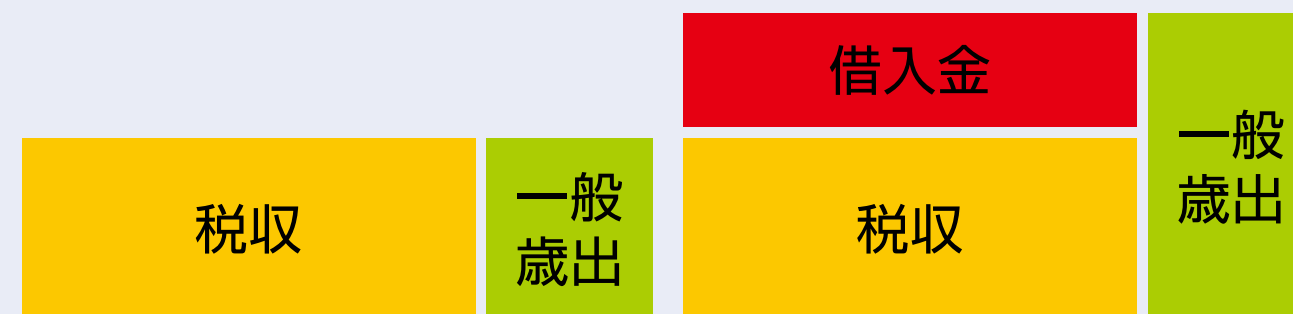


デフレ期における緊縮財政(歳出削減)

三宅流 用語解説 プライマリーバランスとは…

**借金に頼らず
税収だけで行政経費をまかなうこと**

これを黒字化させるということは、歳入よりも少ない額で行政運営をまかなうということになる。プライマリーのバランス化をはかることは理解できるが、黒字化することには甚だ疑問。なぜなら行政の黒字は市民(企業・家計)の赤字であるから。このことを多くの人が理解していない。行政の目的は黒字をつくることではなく市民のニーズを満たすこと。行財政を「家計簿の発想」で行うのは大きな誤り。市内総生産を拡大して市民の所得と税収を増やしていくのが真の財政健全化である。市民所得を減らしてプライマリーを黒字化させても何の意味もない。



▲プライマリーバランスが均等 ▲プライマリーバランスが赤字



三宅流 用語解説 デフレ経済とは…

モノやサービスの売上の不足によって生じる物価の下落と所得の縮小

モノやサービスの値段は、それらが売買されることによって決まります。デフレ期はモノやサービスの供給量に対して、それらを消費したり投資したりする総需要が不足するために物価が下落します。物価が下落すると所得が縮小してしまうため、さらに総需要が不足します。こうした悪循環をデフレスパイラルといいます。デフレが長期化すると、国民は総体として貧困化します。しかし、政府や川崎市は、デフレを「需要不足(モノやサービスの売上の不足)」ではなく「貨幣の不足」と捉えています。そのため、政府は金融を緩和し、おカネの量を増やしてデフレを克服しようとしていますが、いっこうに成果があがっていません。なぜなら、デフレは貨幣の不足現象ではなく、総需要の不足だからです。ここでいう総需要こそが、GDP(名目)です。だからこそ、GDPの拡大が必要なのです。国や自治体の緊縮財政(総需要の削減)がデフレを深刻化させており、財政悪化の真犯人こそはデフレです。